

---

# 美しい月の夜に....。

いちご

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

美しい月の夜に…。

### 【Nコード】

N6329Y

### 【作者名】

いちじ

### 【あらすじ】

「綺麗な月ね…。」

人間界と地上界。

美少女であり、ムーンナイト天才月騎士と呼ばれる美月みつきは、人間ではなかった。地上界に生まれる月騎士は、人間の人生を決める重要な存在だった。

心を闇に封印された美月の前に、次々と敵が現れる。

生か死か… 人生の最期に美月が選んだ答えとは…？

## 〜人間界の夜〜

美しい月の夜。

街は暗闇に包まれ、人間達の気配は、段々と消えていく…。

そんな人間界を、高い塔の上から見下ろす一人の美しい少女がいた。

彼女の名前は、かざまい みつき風舞美月。

ブラウンの長く美しい髪を持ち、ゴールドの大きな瞳は、この世界の暗闇を映していた。

「美月〜、そろそろ地上界に帰ろうよお。」

彼女が座っている隣に、可愛らしい顔の10歳程の少年が不機嫌そうに立っている。

彼の名前は、いひひかり鬼百輝瞳。

「輝瞳…さっきからそればかりね。うるさいわよ…。今話しかけ

ないでよね。考え事をしているんだから。」

すると、輝瞳と呼ばれる少年は、一つ盛大な溜め息をついて大声でこう言った。

「バカ美月！人間界に行ってるって上層部にバレたらど　するんだよ。僕ら殺されちゃうよ！」

自分の身の危険を感じる輝瞳は、徐々に顔色が悪くなっていく。

「輝瞳。大丈夫よ、安心なさい。私の才能溢れる能力で、地上界の時を止めてるから。」

ウインクをしながら自慢気に言う美月に、輝瞳は呆れている。

「まったく！今の美月の力じゃ、あの巨大な地上界の時を止める力はないよ。」

第一、そんなこと、神様だって出来やしないさ。

「ふん。何よ…、可愛くないわね。そんなにここが嫌なら、貴方一

人で帰ればどう？あたしは、ここに残るわ。」

輝瞳の言葉でますます不機嫌になっていく美月。

「おいおい、変な冗談言うなって。お前、ますます性格悪くなるよ。」

暫く二人が喧嘩していると...

コツ...コツ...。

「しっ！何か聞こえない？私達以外に誰かいる...。」

規則正しい足音は徐々に近付いてくる。

「駄目だ...。バレたんだよ。もう僕達はお仕舞いだ。」

「バカ！まだわからないじゃない。一心、武器を構えて...。」

二人は身構え、それぞれ手に短剣を握る。

すると、二人の前に黒い渦が現れ、それは人影になっていく。

「はぁ……。お前達、そんな小さな武器でこの俺を殺せると思うか？」

突然現れた彼の名前は、とうまかなた藤真天空。

「天空!!!」

「げっ!!!」

彼は、スーツを着た、美形の青年である。

「まったく、お前達には呆れるな。輝瞳！美月の監視を任されていないはずじゃないのか？お前の仕事は何だ？」

「ごめんなさい、天空。…僕も一応止めたんだけど、美月が頑固だから。」

でも、少しでも美月のためになつたらと思つて…。」

天空に怒られて落ち込む輝瞳。

一方で、無関心の美月。

「美月！お前にも怒ってるんだ。人間界に無断で行くことは、禁止されているはずだろう？」

「そうだったわね。でもこれは、仕事の下見よ。どの人間があたしに相応しいか、この目で確かめたくて。」

反省する気がない美月を見て、溜め息をつく天空。

「お前が担当の人間を決めるんじゃないだろ。担当を決めるのは、地上界の上層部だ。」

「うるさいわね。あたしの気も知らないで……！」

あまりにも激しい二人の喧嘩に恐怖を感じた輝瞳。

「おい、二人共！こんな所で喧嘩は止めようよ。こんなことして間に時間が過ぎてくたろ……。」

人間界に行っただけで、死ぬなんて御免だ。」



すると、輝瞳の必死な様子が伝わったのか、二人は一旦、大人しくなった。

「安心しろ。上層部にはうまく誤魔化しておいたから。でも、次にルールを破ったら、命は無いと思え。」

「そっか…ありがとう…。天空は、やっぱりすごいや。」

輝瞳の顔はピアと明るくなり、命の恩人を見るような目で天空を見つめた。

それでも、相変わらずそっぽを向いたままの美月。

「しょうがないな。考え事してたんだろっ？そういう時間も必要だもんな。」

そう言って美月の横に座る天空。

「え……。」

天空はニコツと笑う。

「何よ…いきなり。じゃあ、静かにしててよ！」

あ、あたしが立ち上がったなら、もう帰るって意味だからね…！」

美月の素直じゃない可愛らしい所に、天空と輝瞳は、内緒で目を見合せ笑っていた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6329y/>

---

美しい月の夜に...

2011年11月19日10時14分発行